

技能実習 3 年の成果で合格

外国人技能実習生として 2019 年 1 月に中国から来日した王琪^{オウキ}さんは、介護実習技能評価試験の専門級に合格しました。7 月 14 日に多田正毅会長や IIFF のスタッフ、社会福祉法人 達生堂のスタッフたちが集まり、合格を祝いました。

外国人技能実習制度の介護職は、2017 年 11 月の技能実習法の改正に伴い、新たな職種として追加されました。王さんは、IIFF としては初めて、茨城県としては早い時期に技能実習生として来日。1 カ月間の入国後講習を経て社会福祉法人 達生堂のヒューマン・ハウスで実習を行ってきました。

入国後、1 年以内に介護実習後能評価試験の初級があり、合格。今回の専門級の試験は、技能実習の 3 年の期間の中で、介護職としての専門的な知識や技術が身についたかを問われるもので、3 年間の集大成となり、外国人技能実習を卒業することになります。

王さんは、日本のアニメが大好きで、日本語はアニメで勉強したといい、入国時には日本語検定の最も難しい N1 を取得。2019 年 12 月には難関の介護職員初任者研修にも合格しました。

王さんは技能評価試験の合格に「うれしいです。指導員や職場のみんなのおかげです」と喜んでいました。王さんは来年 1 月で研修期間 3 年を終え、中国に帰国します。

「日本に来て、コロナ禍が世界にまん延しました。こんなに長引くとは思っていませんでした。もっといろんなところに行きたかった」と振り返ります。「来日直後に、職場の人たちと大洗水族館やディズニーランドに遊びに行ったことが楽しかった。中国では職場



介護の道を歩み続けたい

の人と遊びに行くことはほとんどなかった」。そして介護職については「介護の道に入ったからには、この道を進んでいきたい。やる以上は、最高のことをやりたい。中国でもこれから介護しないとイケない人が増えていく。日本のような施設が必要となる」と話します。今後については「特定技能実習で日本に来るかについては、あと半年、周りの人とよく相談していきたい。中国に戻ったら、いろんなところに遊びに行きたい」と話していました。 2021年7月15日

